

アクセス方法
 <電車>
 JR「岡山駅」→JR赤穂線「伊部(いんべ)駅」で下車(約40分)
 <車>
 山陽自動車道→備前ICまたは和気(わ)IC(約15分)
 岡山ブルーライン→備前IC(約15分)

memo



小さな旅 ホームページ
<http://nhk.jp/kotabi>

小さな旅

～30年 こころのふるさとをみつめて～

コブック vol. 68

土と炎 ただひとつ
 ～岡山県 備前市～

2012年10月7日(日)放送



職人たちはおおよそ2週間かけて、窯の温度をじわじわと上げていきます。到達する最高温度は1200度。火入れの間は、一秒たりとも気が弛けません。炎の運びによって、色や模様が一瞬たりとも変わってしまいます。職人たちは夜通し薪をくべ続け、汗を流します。一瞬の奇跡に懸け、思い描く理想の備前焼を目指しているのです。新しく窯を作ったときや火入れの前には、神社の宮司が祈とうをすることもあります。

火入れは職人の真剣勝負

旅の見どころ 3

千年の歴史を持つ備前焼の里、岡山県備前市。釉薬を塗らない備前焼は、土そのままの風情が残り、炎の流れによって焼き上がりの表情はさまざまです。同じものが二つとないこの焼き物は、町の中で、家庭の中で、大切にされてきました。畑で野菜を育てながら備前焼を作る半陶半農の職人、ひび割れてしまった思い出の備前焼を修復する夫婦、自由な想像力を土にぶつける小学生・・・素朴な焼き物を愛する人たちを訪ねます。



釉薬を塗らず、コーナーソフや絵付けもされない備前焼。土の質感がそのまま残り、炎の跡が残ります。焼き上がった作品の表情はさまざまです。窯の中で土と炎が出会い、生じる偶然の化学変化が、同じものはふたつとない備前焼を作り出します。毎年10月の第3土曜日・日曜日・日曜日は備前焼まつりが開催されます。窯元が軒を連ねる通りは歩行者天国となり、50ものテントが並びます。通常より手ごろな価格で備前焼を購入でき、全国の焼き物ファンが集う町の一大イベントです。

同じものはふたつとない備前焼

旅の見どころ 2

旅の見どころ 1

焼き物の里 備前市

町には、300人あまりの備前焼職人がいます。窯の煙突が立ち並ぶ風景は、町の風物詩になっています。暑さが一段落した秋は、多くの窯で作品が焼かれる季節。町には大小の備前焼を販売する店が立ち並び、県内外からの多くの観光客でにぎわいます。その他にも、公園の地面や保育園の卒園生の手形、交番の看板など・・・町の至る所に備前焼が使われ、訪れる人を楽しませます。

